

2025 年度 DPC 調査参加病院向け  
様式 1 入力支援ソフト

---

インストールマニュアル

(株)健康保険医療情報総合研究所

## 目次

注意事項.....	3
1. はじめに.....	4
1-1. 動作環境.....	4
1-2. 各場合における参照ページ.....	4
2. 新規セットアップを行う前に.....	5
2-1. SQLServer2014Express SP3 をダウンロードする.....	5
3. 必要コンポーネントのインストール.....	6
3-1. .Net Framework3.5 をインストール／有効化の確認.....	6
3-2. .Net Framework3.5 をインストール／有効化する.....	7
3-3. SQLServer2014Express SP3 をインストールする.....	9
4. 新規セットアップ／バージョンアップ.....	19
4-1. セットアップガイドを起動する.....	19
5. アンインストール.....	25
6. Q&A.....	26
7. インストールができない場合.....	27

## 注意事項

ソフトウェアのご利用にあたりましては、以下の内容にご注意ください。

下記のソフトウェアおよびマニュアルは、「DPC の評価・検証等に係る調査（退院患者調査）」に参加する医療機関が、データを作成することを支援する目的で配布するものであり、それ以外の目的での利用を禁止しています。

また、調査参加病院以外の医療機関が利用すること、内容に基づいて類似のソフトウェアを開発することを禁止します。

- ・ 「様式 1 入力支援ソフト」
- ・ 「様式 1 入力支援ソフトマニュアル」
- ・ 「様式 1 入力支援ソフトインストールマニュアル」

また、以下の内容は、作業前に必ず確認してください。

- ・ 使用前に本マニュアルをよくお読みになってください。
- ・ お読みになったあとは、いつでもご覧できるように保管してください。
- ・ 本マニュアルでは、当ソフトの設定／使用を行う上で必要となることを記載しております。一般的なパソコンの操作や設定については、お使いのパソコンのマニュアルや市販の書籍等をご覧ください。
- ・ 本マニュアルの内容の無断転載・無断複写を禁止します。
- ・ 内容について、万が一不審な点や誤り、記載漏れ等お気づきのことがありましたら DPC 調査事務局までご連絡ください。
- ・ 必ずコンピュータの管理者権限を持つユーザーで作業を行ってください。
- ・ インストールできない場合は、他の PC でのインストールおよび運用をお勧めいたします。
- ・ 当ソフトは院内の環境設定などにより、動作しない場合があります。完全に動作保証するものではありませんのでご了承ください。
- ・ セットアップ作業には、十分な作業時間を確保したうえで、行ってください。なお、セットアップ時間については、コンピュータのスペックや環境によって異なります。
- ・ 他のシステムやアプリケーションは、作業が完了するまで起動しないでください。
- ・ 起動している場合は、すべて終了させてから作業を開始してください。

## 1. はじめに

### 1-1. 動作環境

様式1入力支援ソフトの動作環境は下表のとおりとなります。

OS	Windows11(64ビット) <b>【推奨】</b> Windows10 (32ビット、64ビット) <b>※</b>
DB	SQLServer2014 Express SP3
CPU	SQLServer で要求されている性能をみたすもの ※Pentium4 以上推奨
メモリ	2GB を超えるもの
システムドライブの空容量	1GB 以上 <b>【推奨】</b> (200MB 以下は、不可)
セットアップ先ドライブの空容量	1GB 以上 <b>【推奨】</b> (200MB 以下は、不可)
必要コンポーネント	.Net Framework 3.5 .Net Framework 4.0

※Windows10 につきましては、2025 年 10 月 14 日をもってマイクロソフト社の延長サポートが終了するため、終了後の動作保証は出来かねますことをご了承ください。

### 1-2. 各場合における参照ページ

#### ■新規セットアップを実施する場合

「[2. 新規セットアップを行う前に](#)」の章を参照してください。

#### ■バージョンアップを実施する場合

「[4. 新規セットアップ／バージョンアップ](#)」の章を参照してください。

## 2. 新規セットアップを行う前に

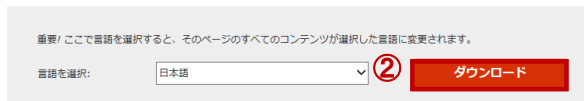
新規セットアップを行う前に、以下の手順に従い、セットアップに必要なファイルをダウンロードしてください。

### 2-1. SQLServer2014Express SP3 をダウンロードする

<Microsoft® SQL Server® 2014 Service Pack 3 (SP3) Express ダウンロードサイト>

<https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=57473> ①

Microsoft® SQL Server® 2014 Service Pack 3 (SP3) Express



Microsoft® SQL Server® 2014 Express は、小規模な Web サイトやデスクトップアプリケーション用に、機能が豊富で信頼性の高いデータ ストアを提供できる無償のデータ管理システムです。

- ① SQLServer2014Express SP3 ダウンロードサイトを開きます。
- ② ダウンロードボタンをクリックします。

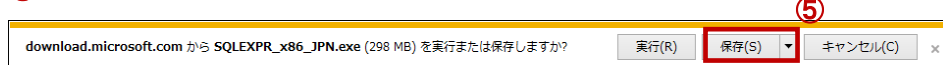


- ③ 「SQLEXPRESS\_x86\_JPN.exe」にチェックを入れます。

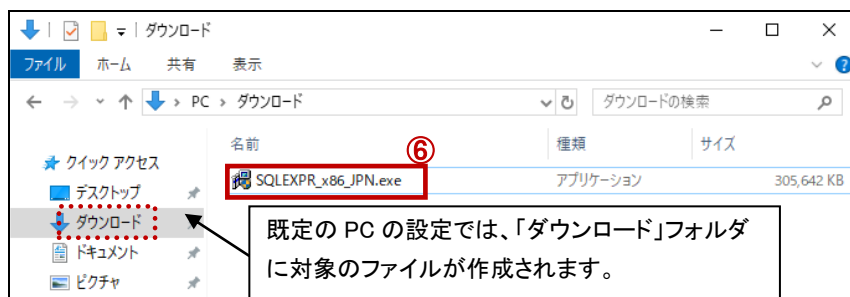
#### 【注意】

作業対象 PC が 64 ビットである場合も、x86(32bit)版をインストールしてください。

- ④ [次へ]ボタンをクリックします。



- ⑤ 確認メッセージが表示されたら、[保存]ボタンをクリックし、ダウンロードを開始します。



- ⑥ ダウンロード先のフォルダに「SQLEXPRESS\_x86\_JPN.exe」が作成されますので、作業対象の PC に配置してください。

- ⑦ 「[3. 必要コンポーネントのインストール](#)」を参考にインストールを実施してください。

### 3. 必要コンポーネントのインストール

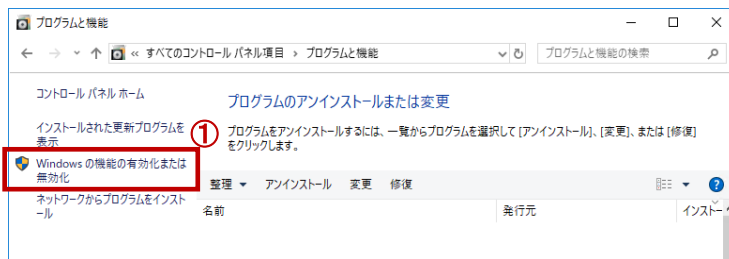
様式1 入力支援ソフトの新規セットアップをする前に、以下をインストールしてください。

- ・ .Net Framework 3.5
- ・ SQLServer2014Express SP3

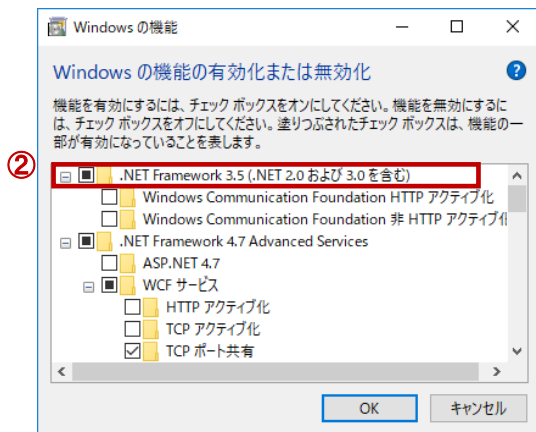
※SQLServer2014 Express SP3 のインストール前に、.Net Framework3.5 をインストールする必要があります。

#### 3-1. .Net Framework3.5 をインストール／有効化の確認

##### 【確認方法】



- ① Windows の「スタートメニュー」→「Windows システムツール」→「コントロールパネル」→「プログラムと機能」の一覧から「Windows の機能の有効化または無効化」をクリックしてください。



- ② 表示された画面から、「.NET Framework 3.5(.NET 2.0 および 3.0 を含む)」のチェックが塗りつぶされている場合は有効化されています。

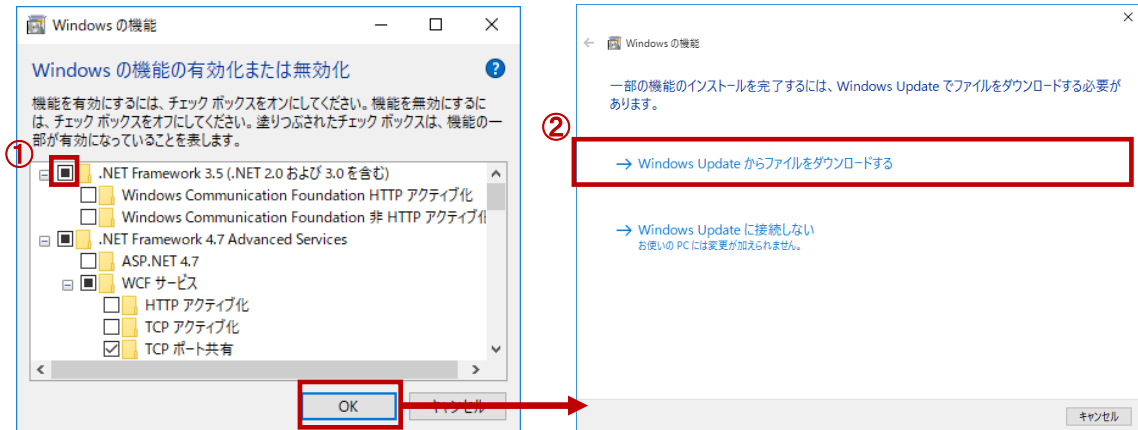
※ 塗りつぶされていない場合は、機能が無効化されていますので、次章、「[3-2. .Net Framework3.5 をインストール／有効化する](#)」に従ってインストール／有効化を実施してください。

### 3-2. .Net Framework3.5 をインストール／有効化する

有効化を行うために、以下の手順に従って実施してください。なお、作業対象 PC が「オンライン」か「オフライン」で対応内容が変わりますのでご注意ください。

#### ■オンライン環境でのインストール／有効化

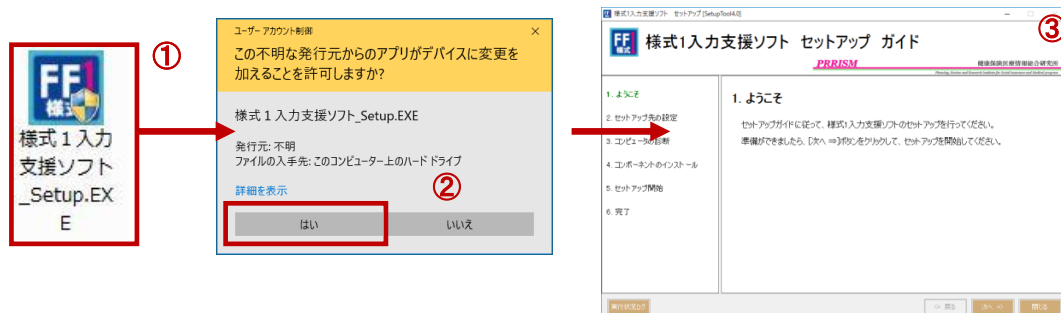
作業対象 PC が「オンライン」であり「Windows Update」が可能な状態であれば、以下の手順に従ってください。



- ① 「3-1. .Net Framework3.5 をインストール／有効化の確認」で開いた設定画面のチェックボックスを塗りつぶして[OK]をクリックします。
- ② 「Windows Update からファイルをダウンロードする」をクリックし、変更が正常に完了することで有効化されます。

#### ■オフライン環境でのインストール／有効化

作業対象 PC が「オフライン」である場合は、以下の手順に従ってください。



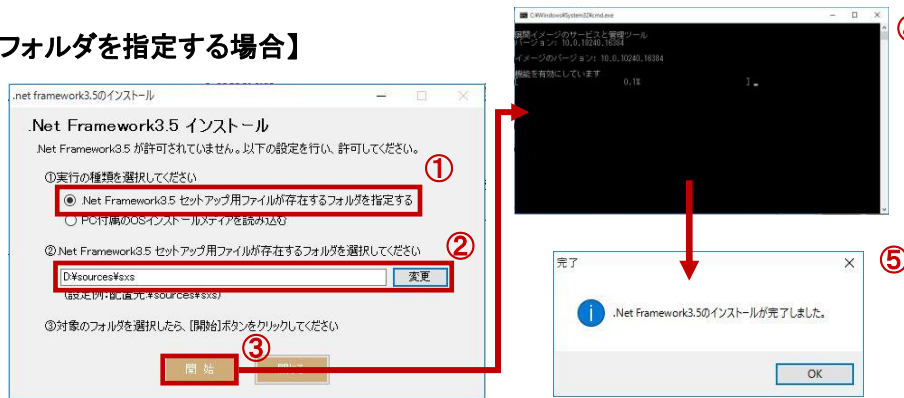
- ① ダウンロードした「様式1入力支援ソフト\_Setup.EXE」をダブルクリックします。
- ② ユーザーアカウント制御の確認画面が表示されたら、[はい]ボタンをクリックします。
- ③ 様式1入力支援ソフト セットアップガイドが起動します。
- ④ ③の画面と同時に「.Net Framework3.5 インストール」の画面が表示されるので、次項目（[■新規セットアップ時に下記のような画面が出た場合](#)）を参考に「.Net Framework3.5」のインストールを実施してください。

## ■新規セットアップ時に下記のような画面が出た場合

表示された画面の内容に従って、「.Net Framework3.5」のインストールを実施してください。

- ※ 作業PCが「オンライン」環境である場合は、「[■オンライン環境でのインストール／有効化](#)」を参考に設定を実施してください。

### 【フォルダを指定する場合】



- ① 「.Net Framework3.5 セットアップ用ファイルが存在するフォルダを指定する」を選択します。
- ② [変更]ボタンより、対象のフォルダを選択します。
- ③ [開始]ボタンをクリックします。
- ④ 処理が開始されますので、完了するまで待機します。
- ⑤ 完了メッセージが表示されたら[OK]ボタンをクリックします。

### 【メディアドライブを指定する場合】



- ① 「PC 付属の OS インストールメディアを読み込む」を選択します。
- ② OS インストールメディアを挿入した、ドライブをプルダウンより選択します。
- ③ [開始]ボタンをクリックします。
- ④ 処理が開始されますので、完了するまで待機します。
- ⑤ 完了メッセージが表示されたら[OK]ボタンをクリックします。
- ⑥ 一度セットアップガイドツールを終了します。[閉じる]ボタンをクリックします。
- ⑦ インストールの確認が表示されたら、[キャンセル]ボタンをクリックします。

※「.Net Framework3.5」のインストールエラーにおきましては、ソフトと直接関係のないお使いの Windows 環境によるエラーの場合、お問い合わせいただいても、ご回答できない場合がございます。あらかじめご了承ください。



### 3-3. SQLServer2014Express SP3 をインストールする

#### 【注意】 インストール前に確認

新規インストールを実施時、「.Net Framework3.5」がインストールされていない場合、「SQLServer2014Express SP3」のインストール処理に失敗します。

作業前に必ず、「[3-1. .Net Framework3.5 をインストール／有効化の確認](#)」を行ったうえで、作業 PC に対象のコンポーネントがインストールされていることを確認してから、下記の手順を行ってください。

以下の手順に従い、「SQLServer2014Express SP3」をインストールしてください。

※インストール・インスタンス作成が初めての場合か、またはそうではない場合かによって、インストールの手順(画面表示)が変わります。

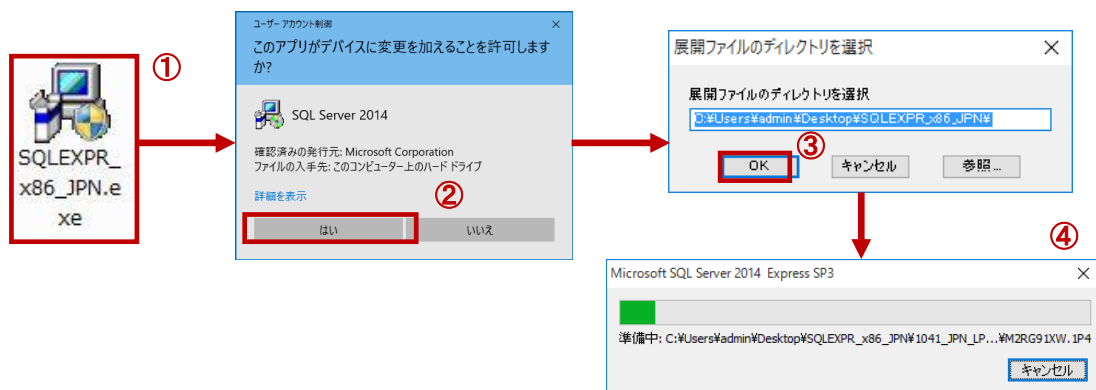
それぞれの場合に合わせた手順に沿って、インストールをしてください。

#### ■初めて SQLServer をインストールする場合

#### ■既に SQLServer をインストールしている(別のインスタンスを作成している)場合

どちらの場合も設定していただく内容に違いはありません。

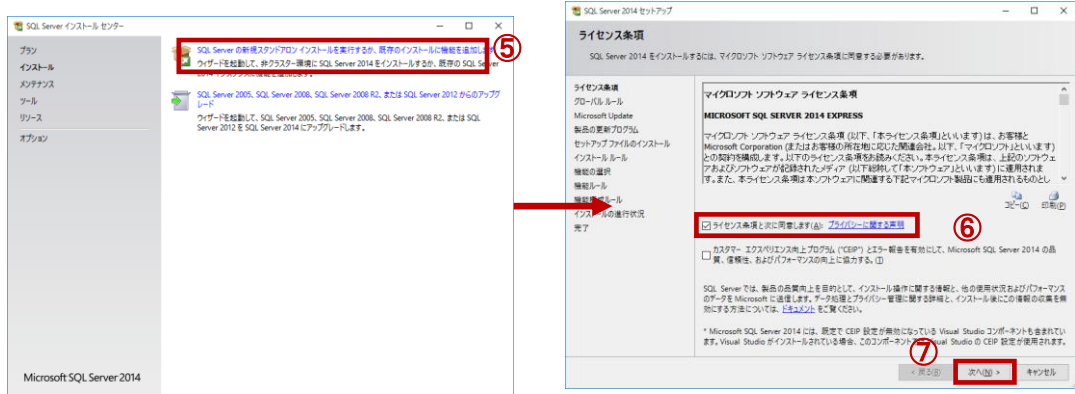
#### ■初めて SQLServer をインストールする場合



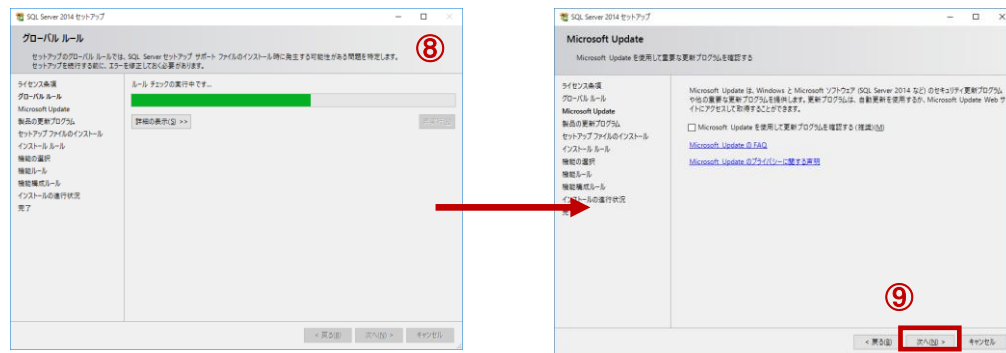
- ① 「[2-1. SQLServer2014Express SP3 をダウンロードする](#)」でダウンロードした「SQLEXP\_x86\_JPN.exe」を作業対象の PC に配置して、ダブルクリックします。
- ② ユーザーアカウント制御の確認画面が表示されたら、[はい]ボタンをクリックします。
- ③ 展開画面が表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。
- ④ 展開処理が開始されますので、待機します。

⇒ 次ページに続く

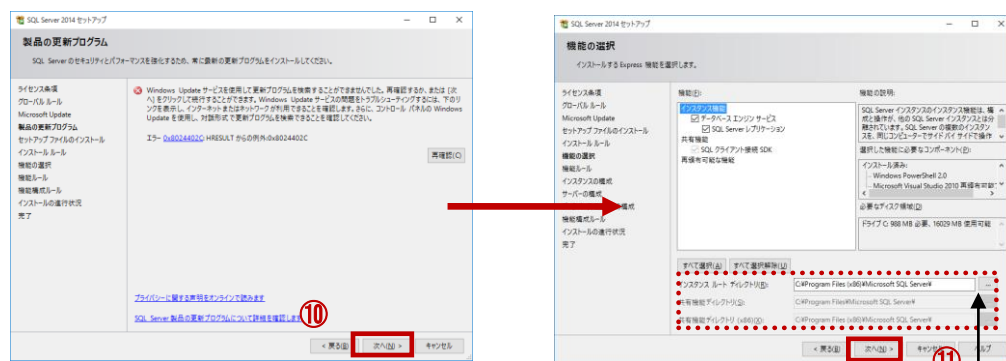
⇒ 前ページからの続き



- ⑤ インストールセンターの画面が表示されたら、「SQL Server の新規スタンドアロン インストールを実行するか、既存のインストールに機能を追加します」をクリックします。
- ⑥ ライセンス条項に同意しますにチェックを入れます。
- ⑦ [次へ]ボタンをクリックします。



- ⑧ グローバルルールの確認が実行されますので、待機します。
- ⑨ Microsoft Update の画面が表示されたら、[次へ]ボタンをクリックします。



- ⑩ 製品の更新プログラムの画面が表示されたら、[次へ]ボタンをクリックします。
- ⑪ 機能の選択画面が表示されたら、[次へ]ボタンをクリックします。

SQLServer インストール先を変更する必要がある場合は、適宜行ってください。

⇒ 次ページに続く

⇒ 前ページからの続き

SQL Server 2014 セットアップ

インスタンスの構成

SQL Server インスタンスの名前およびインスタンス ID を指定します。インスタンス ID は、インストール パスの一部になります。

ライセンス条項  
グローバル ルール  
Microsoft Update  
セットアップファイルのインストール  
インストール ルール  
機能の選択  
機能の選択  
インスタンスの構成  
サーバーの構成  
データベース エンジンの構成  
機能構成ルール  
インストールの進行状況  
完了

☐ 既定のインスタンス(D)

☒ 名前付きインスタンス(I) ⑫

インスタンス ID(I): FF1 ⑬

SQL Server デレクトリ(D): C:\Program Files (x86)\Microsoft SQL Server\MSSQL12.FF1

インストール済みインスタンス(I):

インスタンス名	インスタンス ID	機能	エディション	バージョン
---------	-----------	----	--------	-------

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル ヘルプ

名前付きインスタンスに「FF1」と入力ください。

自動で「FF1」と入力されます。

【注意】

名前付きインスタンス・インスタンス ID が、半角英数字で「FF1」と入力されていることをご確認ください。

⑫ 名前付きインスタンスを選択して、半角英数字で「FF1」と入力します。

⑬ [次へ] ボタンをクリックします。

【注意】

SQL Server データベース エンジンのアカウントは、以下の手順で必ず「NT AUTHORITY\SYSTEM」で設定してください。

SQL Server 2014 セットアップ

サーバーの構成

サービス アカウントとサービス構成の構成を指定します。

サービス アカウント 照会結果

各 SQL Server サービスに別々のアカウントを使用することを勧めます。

サービス	アカウント名	パスワード	スタートアップの構成
SQL Server データベース エンジン	NT AUTHORITY\SYSTEM ⑭		自動
SQL Server Browser	NT AUTHORITY\SYSTEM		無効

ユーザーまたはグループの選択

オブジェクトの種類を選択(S): ユーザー、グループまたはビルトイン セキュリティ プリンシパル オブジェクトの種類(O)...

場所の指定(F): DESKTOP ⑮ 場所(L)...

選択するオブジェクト名を入力してください (O)(E): system ⑯ 名前の確認(C)

詳細設定(A)... OK キャンセル

ユーザーまたはグループの選択

オブジェクトの種類を選択(S): ユーザー、グループまたはビルトイン セキュリティ プリンシパル オブジェクトの種類(O)...

場所の指定(F): DESKTOP ⑰ 場所(L)...

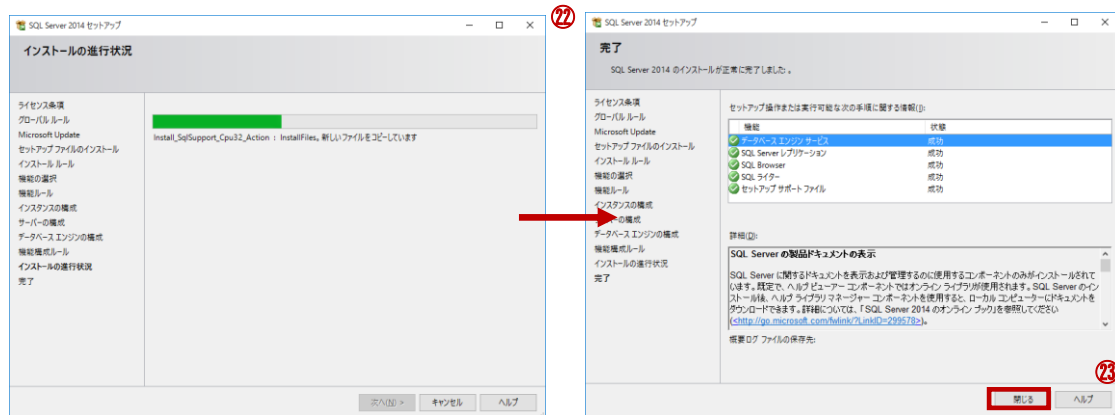
選択するオブジェクト名を入力してください (O)(E): SYSTEM ⑱ 名前の確認(C)

詳細設定(A)... OK キャンセル

⇒ 次ページに続く



⇒ 前ページからの続き



㉒ インストールが開始されますので、インストールが完了するまで待機します。

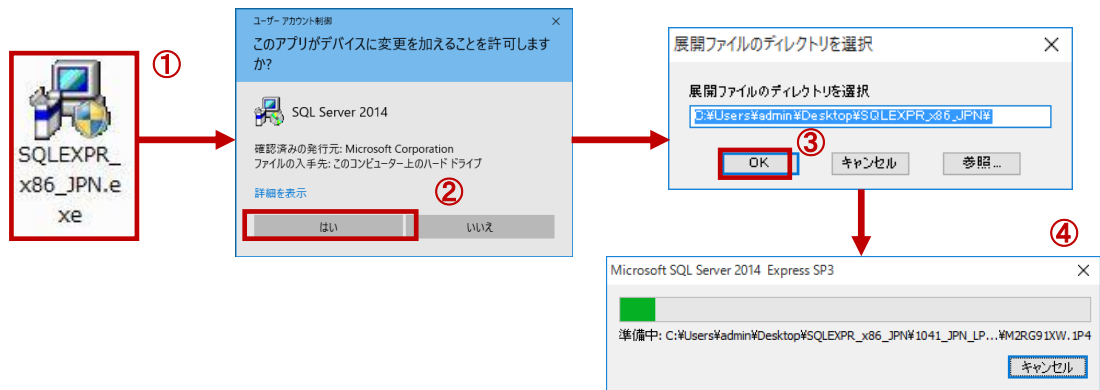
【注意】

お使いのPC環境によっては、インストールが完了するまで、30分以上かかる場合があります。途中で、インストールを中断せず、処理が終わるまで操作しないでください。

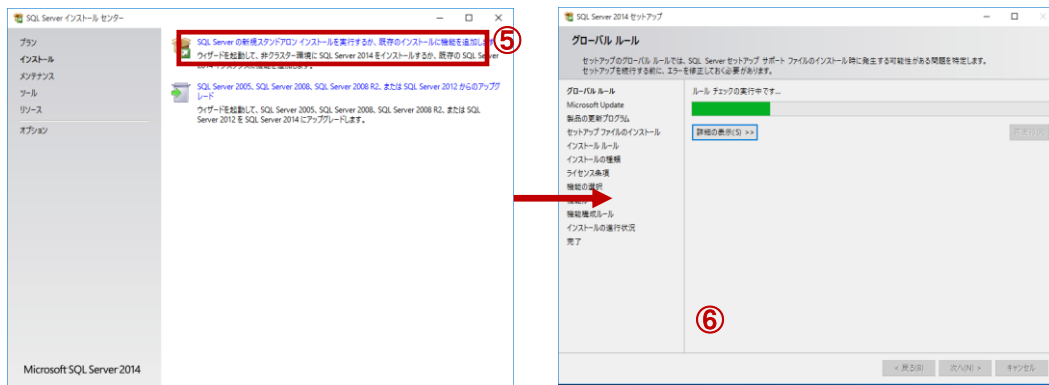
㉓ インストールが完了したら、[閉じる]ボタンをクリックして終了します。  
(インストールセンターの画面も閉じます)

「SQLServer2014Express SP3」をインストール完了後は、様式1入力支援ソフトの [4. 新規セットアップ／バージョンアップ](#)を実施してください。

■既に SQLServer をインストールしている(別のインスタンスを作成している)場合



- ① 「2-1. SQLServer2014Express SP3 をダウンロードする」でダウンロードした「SQLEXPRESS\_x86\_JPN.exe」を作業対象の PC に配置して、ダブルクリックします。
- ② ユーザーアカウント制御の確認画面が表示されたら、[はい]ボタンをクリックします。
- ③ 展開画面が表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。
- ④ 展開処理が開始されますので、待機します。



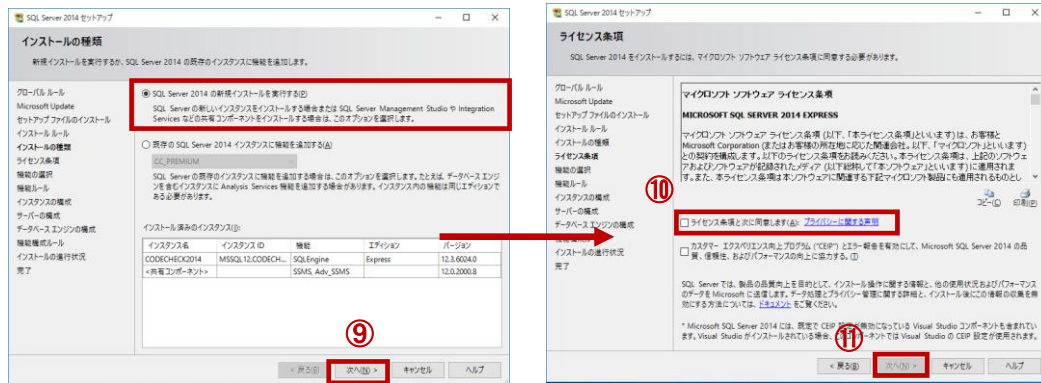
- ⑤ インストールセンターの画面が表示されたら、「SQL Server の新規スタンドアロン インストールを実行するか、既存のインストールに機能を追加します」をクリックします。
- ⑥ グローバルルールの確認が実行されますので、待機します。



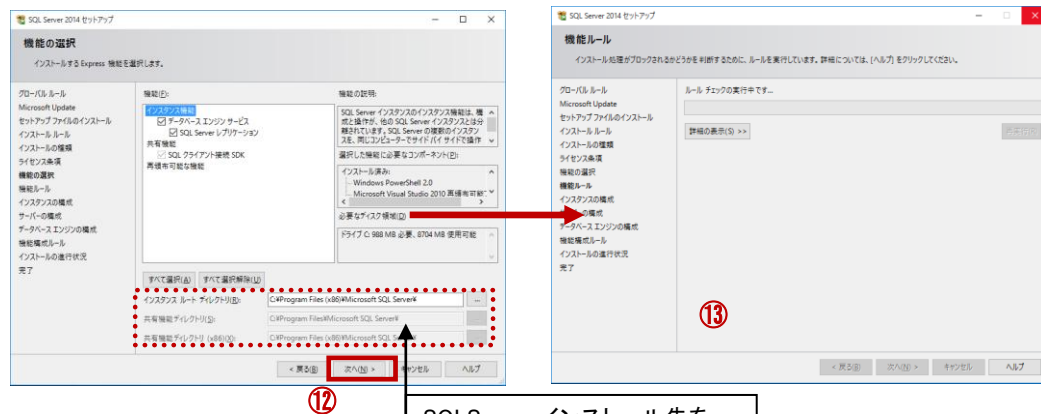
- ⑦ Microsoft Update の画面が表示されたら、[次へ]ボタンをクリックします。
- ⑧ 製品の更新プログラムの画面が表示されたら、[次へ]ボタンをクリックします。

⇒ 次ページに続く

⇒ 前ページからの続き



- ⑨ インストールの種類が表示されたら、「SQLServer2014 新規インストールを実行する」を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。
- ⑩ ライセンス条項に同意しますにチェックを入れます。
- ⑪ [次へ]ボタンをクリックします。



- ⑫ 機能の選択画面が表示されたら、[次へ]ボタンをクリックします。
- ⑬ 機能ルールの実行を待ちます。

⇒ 次ページに続く

⇒ 前ページからの続き

SQL Server インスタンスの名前およびインスタンス ID を指定します。インスタンス ID は、インストール パスの一部になります。

既定のインスタンス(D) ☐ 名前付きインスタンス(A):

インスタンス ID(I):

SQL Server デレクトリ(D): C:\Program Files (x86)\Microsoft SQL Server\MSSQL12.FF1

インストール済みインスタンス(I):

インスタンス名	インスタンス ID	機能	エディション	バージョン
CODECHECK2014	MSSQL12.CODECH...	SQL Engine	Express	12.3.6024.0
<共有コンポーネント>		SSMS, Adv_SSMS		12.0.2000.8

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル ヘルプ

名前付きインスタンスに「FF1」と入力ください。

自動で「FF1」と入力されます。

【注意】

名前付きインスタンス・インスタンス ID が、半角英数字で「FF1」と入力されていることをご確認ください。

⑭ 名前付きインスタンスを選択して、半角英数字で「FF1」と入力します。

⑮ [次へ] ボタンをクリックします。

【注意】

SQL Server データベース エンジンのアカウントは、以下の手順で必ず「NT AUTHORITY\SYSTEM」で設定してください。

サービス アカウントと照会権限の構成を指定します。

サービス アカウント 照会権限

SQL Server サービスに別々のアカウントを使用することを勧めます(I):

サービス	アカウント名	パスワード	スタートアップの種類
SQL Server データベース エンジン	NT AUTHORITY\SYSTEM		自動
SQL Server Browser	NT AUTHORITY\SYSTEM		自動

ユーザーまたはグループの選択

オブジェクトの種類を選択(S): ユーザー、グループまたはビルトイン セキュリティプリンシパル

場所の指定(F): DESKTOP

選択するオブジェクト名を入力してください (O)(E): system

名前を確認(C)

詳細設定(A)... OK キャンセル

ユーザーまたはグループの選択

オブジェクトの種類を選択(S): ユーザー、グループまたはビルトイン セキュリティプリンシパル

場所の指定(F): DESKTOP

選択するオブジェクト名を入力してください (O)(E): SYSTEM

名前を確認(C)

詳細設定(A)... OK キャンセル

⇒ 次ページに続く

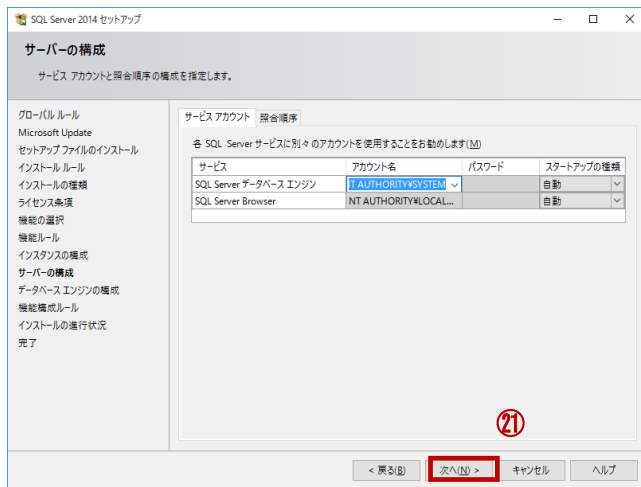


⇒ 前ページからの続き

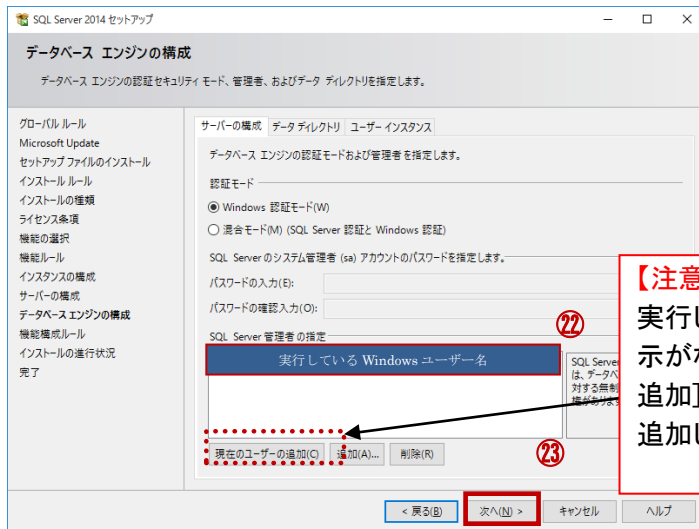
- ⑩ SQL Server データベース エンジンのアカウント名のプルダウンを表示して、参照ボタンをクリックします。
- ⑪ ユーザーまたはグループの選択画面が表示されたら、入力欄に半角英字で「system」と入力します。

【注意】必ず半角英字で「system」と入力してください。

- ⑫ [名前の確認]ボタンをクリックします。
- ⑬ 入力した値が「SYSTEM」に変更されます。
- ⑭ [OK]ボタンをクリックします。



- ⑮ [次へ]ボタンをクリックします。

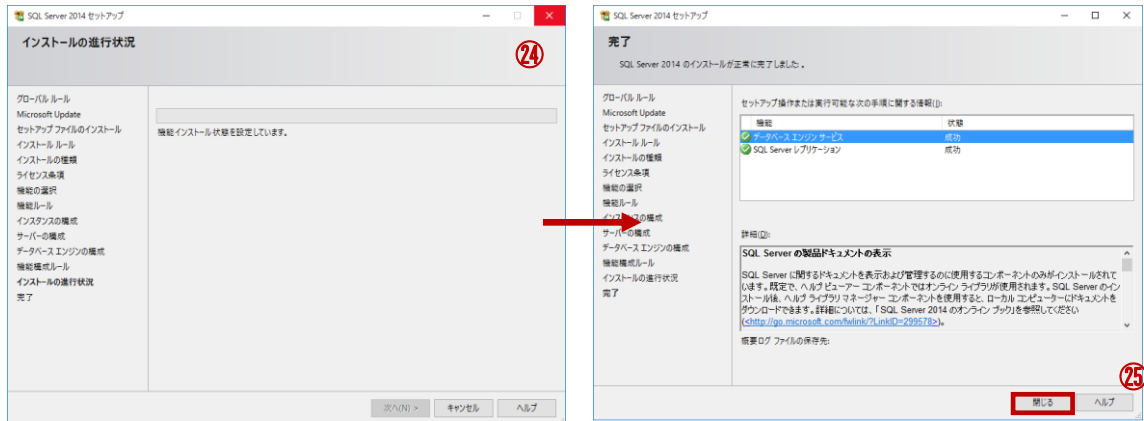


【注意】  
実行している Windows ユーザー名の表示がない場合は、[現在のユーザーの追加]ボタンをクリックして、ユーザーを追加してください。

- ⑯ 実行している Windows ユーザー名が表示されているか確認します。  
(表示されていない場合は、追加してください)
- ⑰ [次へ]ボタンをクリックします。

⇒ 次ページに続く

⇒ 前ページからの続き



②④ インストールが開始されますので、インストールが完了するまで待機します。

**【注意】**

お使いのPC環境によっては、インストールが完了するまで、30分以上かかる場合があります。途中で、インストールを中断せず、処理が終わるまで操作しないでください。

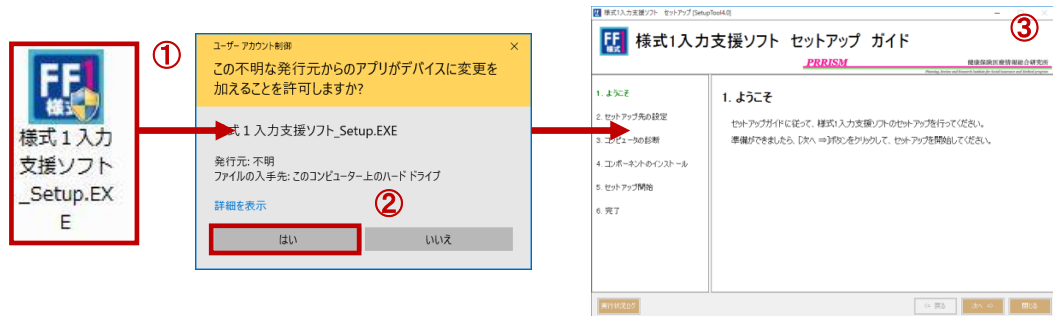
②⑤ インストールが完了したら、[閉じる]ボタンをクリックして終了します。  
(インストールセンターの画面も閉じます)

「SQLServer2014Express SP3」をインストール完了後は、様式1入力支援ソフトの [4. 新規セットアップ／バージョンアップ](#)を実施してください。

## 4. 新規セットアップ／バージョンアップ

以下の手順に従い、様式1 入力支援ソフトの新規セットアップ／バージョンアップを行ってください。

### 4-1. セットアップガイドを起動する



- ① ダウンロードした「様式1入力支援ソフト\_Setup.EXE」をダブルクリックします。
- ② ユーザーアカウント制御の確認画面が表示されたら、[はい]ボタンをクリックします。
- ③ 様式1 入力支援ソフト セットアップガイドが起動します。

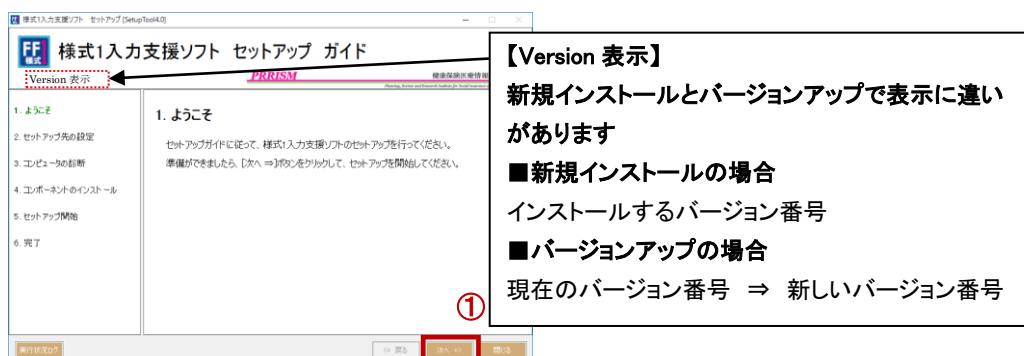
#### 【注意】.Net Framework インストール確認

作業対象の PC に「.Net Framework3.5」がインストールされていない場合、「.Net Framework3.5」のインストールを求める画面が表示されます。

その際は、「**■新規セットアップ時に下記のような画面が出た場合**」に記載された内容に従い、インストールを実行してください。

※インストール画面が表示されない場合は.Net Framework3.5 のインストール／有効化は完了しています。

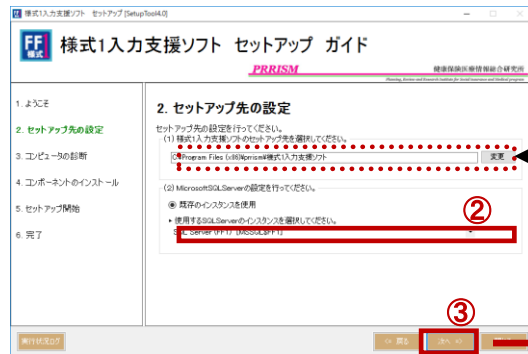
### ■セットアップの開始



- ① ようこそ画面が表示されたら、[次へ]ボタンをクリックします。

⇒ 次ページに続く

⇒ 前ページからの続き



■新規インストールの場合

既定のセットアップ先以外にインストールする場合は、[変更]ボタンよりインストール先を変更してください。

■バージョンアップの場合

既にインストール済みの環境であるため、設定変更はできません。



② SQL Server(FF1)を選択します。

③ [次へ]ボタンをクリックします。

④ システムドライブと同じドライブを選択した際には、確認メッセージが表示されますので[はい]ボタンをクリックします。

【注意】 新規インストール時のセットアップ先のフォルダ設定について

[変更]ボタンで任意のフォルダを指定した場合、インストール先は「(任意のフォルダ)様式1入力支援ソフト」に設定されます。

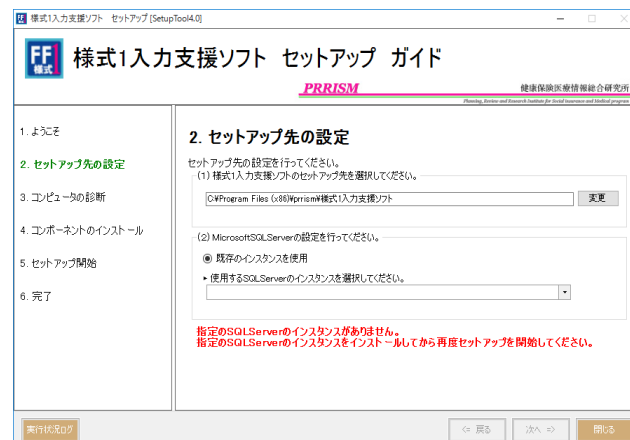
※ただし、任意のフォルダに「様式1入力支援ソフト」の文字が含まれている場合は、インストール先は任意のフォルダに設定されます。

セットアップ先のフォルダに指定がない場合は、初めに記載されている既定の設定である「C:\Program Files (x86)\Prism\様式1入力支援ソフト」のままインストールすることを推奨します。

【注意】 インスタンス(FF1)が選択できない場合

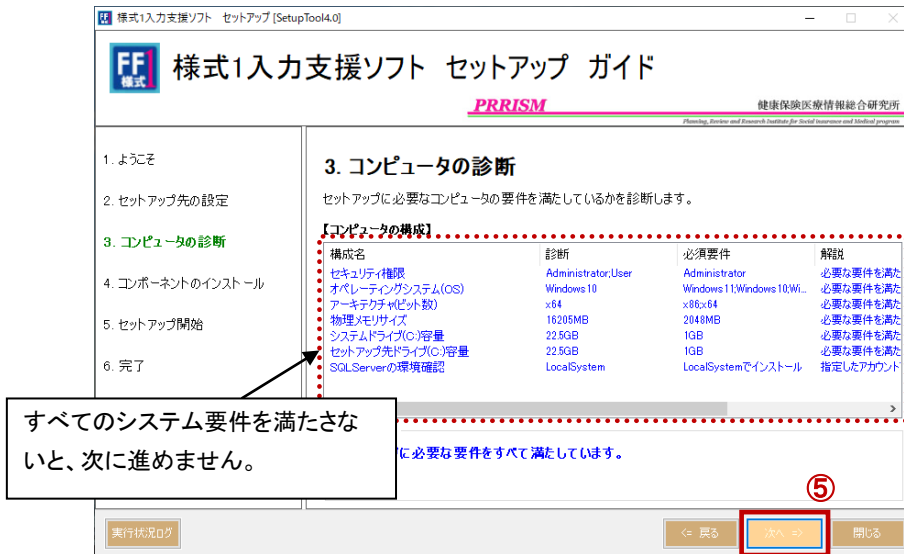
「SQLServer2014Express SP3」のインストールが完了していない、または作成したインスタンスの名前が誤っている場合、下記画面のように対象のインスタンス(FF1)を選択することができません。

下記画面が表示されたら、セットアップガイドを一度終了し、「[3-3. SQLServer2014Express SP3 をインストールする](#)」に従って、「SQLServer2014Express SP3」のインストールを行ってください。



⇒ 次ページに続く

⇒ 前ページからの続き



⑤ コンピュータの診断画面が表示されたら、[次へ]ボタンをクリックします。

【コンピュータの診断について】

構成名	診断	必須要件	解説
セキュリティ権限	Administrator, User	Administrator	必要な要件を満たしている
オペレーティングシステム(OS)	Windows 10	Windows 10, Windows 8.1, Wi...	必要な要件を満たしている
アーキテクチャ(ビット数)	x64	x86, x64	必要な要件を満たしている
物理メモリサイズ	4096MB	2048MB	必要な要件を満たしている
システムドライブ(C:)容量	22.5GB	1GB	必要な要件を満たしている
セットアップ先ドライブ(C:)容量	22.5GB	1GB	必要な要件を満たしている
SQL Serverの環境確認	LocalSystem	LocalSystemでインストール	指定したアカウント

《画面説明》

【構成名】 コンピュータの確認名称を表示

【診断】 対象コンピュータの状況を表示

【必須要件】 セットアップの必須条件を表示

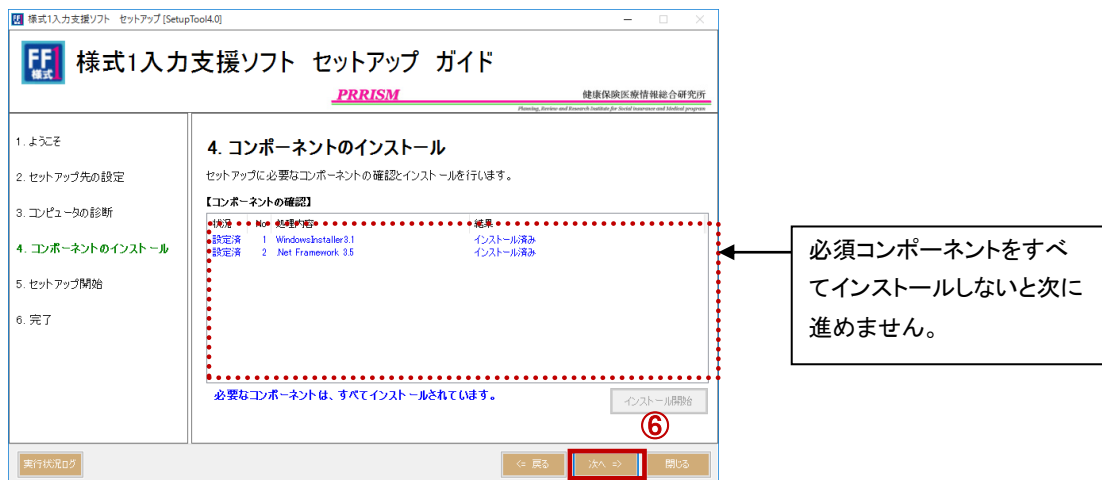
【解説】 説明を表示

《診断内容》

- (1)セキュリティ権限 : 現在、ログインしている Windows ユーザーが必須要件の権限が付与されているか確認します。  
(要件を満たさない場合) Administrator 権限の Windows ユーザーで実行してください。
- (2)オペレーティングシステム(OS) : 対象コンピュータの OS バージョンが必須要件の OS バージョンであるか確認します。  
(要件を満たさない場合) OS の必須要件を満たしたコンピュータにて、セットアップを行ってください。
- (3)アーキテクチャ(ビット数) : 対象コンピュータのアーキテクチャが必須要件のアーキテクチャであるか確認します。  
(要件を満たさない場合) アーキテクチャの必須要件を満たしたコンピュータにて、セットアップを行ってください。
- (4)物理メモリサイズ : 対象コンピュータの物理メモリサイズが必須要件の物理メモリサイズであるか確認します。  
(要件を満たさない場合) 物理メモリサイズの必須要件を満たしたコンピュータにて、セットアップを行ってください。
- (5)システムドライブの空容量 : 対象コンピュータのシステムドライブの空容量が必須要件の空容量以上であるか確認します。  
(要件を満たさない場合) システムドライブの空容量の必須要件を満たしたコンピュータにて、セットアップを行ってください。
- (6)セットアップ先ドライブの空容量 : 対象コンピュータのセットアップドライブの空容量が必須要件の空容量以上であるか確認します。  
(要件を満たさない場合) セットアップ先ドライブの空容量の必須要件を満たしたコンピュータにて、セットアップを行ってください。
- (7)SQL Server の環境確認 : SQL Server が正しくインストールされているか確認します。  
(要件を満たさない場合) SQL Server インストールが正しくインストールされておりません。再度、SQL Server をインストールしてください。

⇒ 次ページに続く

⇒ 前ページからの続き



⑥ コンポーネントのインストール画面が表示されたら、[次へ]ボタンをクリックします。

#### 【コンポーネントのインストールについて】

【コンポーネントの確認】			
状況	No	処理内容	結果
設定済	1	WindowsInstaller 3.1	インストール済み
設定済	2	.Net Framework 3.5	インストール済み

#### 《画面説明》

【状況】 インストール状況の表示

【No】 表示番号を表示

【処理内容】 対象のコンポーネント名を表示

【結果】 結果の説明を表示

#### 《診断内容》

(1) WindowsInstaller 3.1

対象コンピュータに WindowsInstaller 3.1 がインストールされているかを確認します。

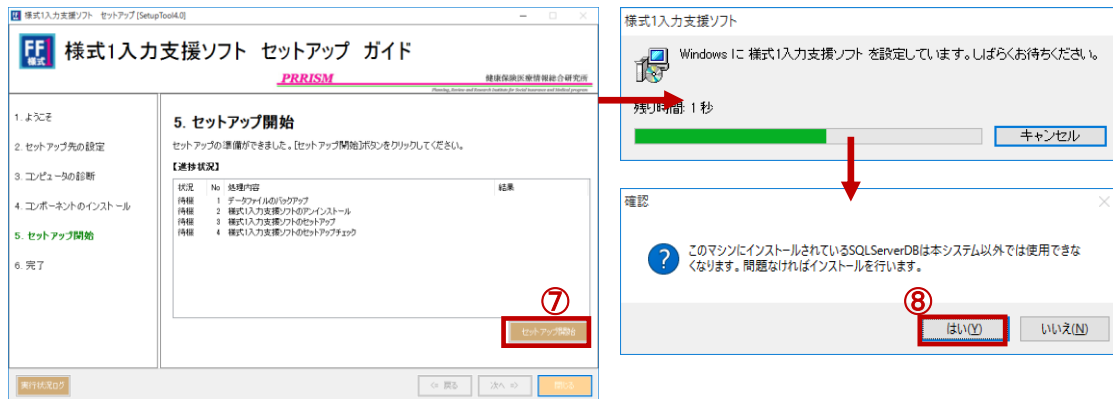
(2) .Net Framework 3.5

対象コンピュータに .Net Framework 3.5 がインストールされているかを確認します。

※コンポーネントがすべてインストールされていない場合は、「[3. 必要コンポーネントのインストール](#)」などの内容を参考に、別途インストールを行ってください。

⇒ 次ページに続く

⇒ 前ページからの続き



- ⑦ セットアップ開始画面が表示されたら、[セットアップ開始]ボタンをクリックします。  
 ⑧ 確認メッセージが出たら、[はい]をクリックします。

【様式1入力支援ソフトのセットアップについて】

状況	No	処理内容	結果
待機	1	データファイルのバックアップ	
待機	2	様式1入力支援ソフトのアンインストール	
待機	3	様式1入力支援ソフトのセットアップ	
待機	4	様式1入力支援ソフトのセットアップチェック	

《画面説明》

- 【状況】 進捗状況を表示  
 【No】 表示番号を表示  
 【処理内容】 処理内容を表示  
 【結果】 結果の表示

《診断内容》

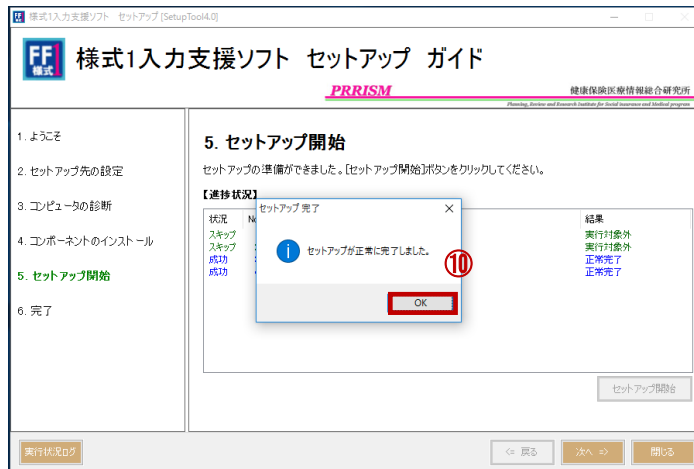
- (1) データファイルのバックアップ  
 様式1入力支援ソフトのバックアップ処理を実行します。(新規インストールは対象外)
- (2) 様式1入力支援ソフトのアンインストール  
 様式1入力支援ソフトのアンインストールを実行します。(新規インストールは対象外)
- (3) 様式1入力支援ソフトのセットアップ  
 様式1入力支援ソフトのインストール処理を実行します。
- (4) 様式1入力支援ソフトのセットアップチェック  
 様式1入力支援ソフトのインストール処理が正常に終了したか確認します。

【注意】 エラーが発生した場合  
 後述する「[7. インストールができない場合](#)」をご参照ください。

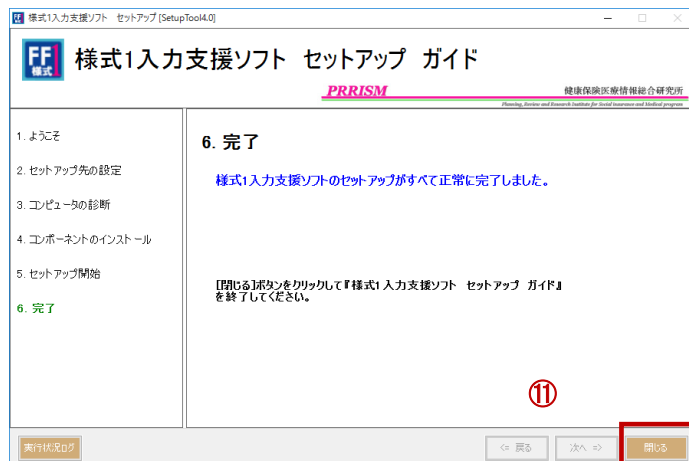
- ⑨ セットアップが開始されます。セットアップ完了までお待ちください。

⇒ 次ページに続く

⇒ 前ページからの続き



⑩ セットアップ完了メッセージが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。



⑪ すべての処理が完了となります。[閉じる]ボタンをクリックします。



## 5. アンインストール

様式1入力支援ソフトのアンインストールは、以下の手順に従って実施してください。

**【注意】 アンインストールをする前に**

様式1入力支援ソフトをアンインストールする前には、必ず直前までの入力データのバックアップを作成しているか確認してください。

なお、バックアップの方法につきましては、様式1入力支援ソフトマニュアルの「DB バックアップ」の頁を参照ください。



- ① 「コントロールパネル」から「プログラムと機能」を立ち上げます。
  - ② 「プログラムと機能」画面から、「様式1入力支援ソフト」を選択し、「アンインストール」を押下して実行します。（.NET Framework 3.5 のアンインストールは必要ありません）
- ※ アンインストールを実行するには、管理者アカウントで作業を行う必要があります。  
標準ユーザーでWindows にログオンしている場合は、管理者アカウントのパスワードを入力してください。  
Windows の管理者アカウントでの作業については、各医療機関のシステム管理者とご調整をお願いいたします。

## 6. Q&A

様式1 入力支援ソフトインストールに関する Q&A となります。

---

質問: Windows10、11 にはデフォルトで .NET Framework4.x がインストール済みですが、3.5 の有効化が必要なのでしょうか？

回答: 必要です。本マニュアルの「[3-2. .Net Framework3.5 をインストール／有効化する](#)」を参照し、「.NET Framework 3.5」を有効化して下さい。

---

質問: セットアップ.EXE の実行時、「古いバージョンのセットアップ EXE は、起動できません。」「既に同一のバージョンは適用済みです。セットアップツールを終了します。」と表示される。

回答: 古いセットアップ.EXE を起動しています。  
調査用ホームページより、最新のセットアップ.EXE をダウンロードしてください。

---

質問: セットアップ時に、エラーが発生して、インストールができない。

回答: 次章「[7. インストールができない場合](#)」を参照していただき、ログファイル及びエラー情報を添付のうえ、お問い合わせください。

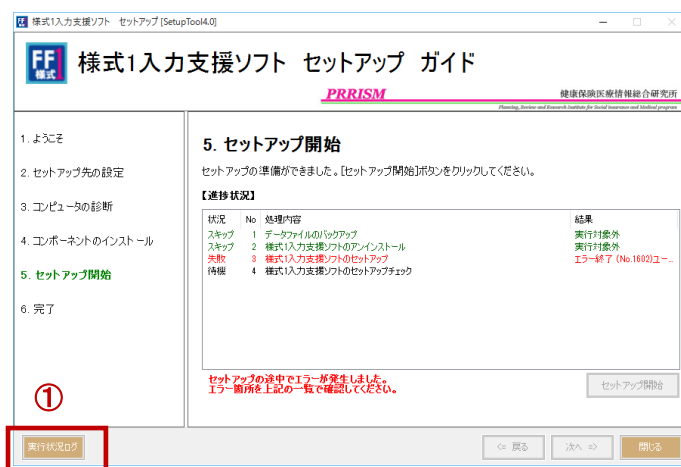
---

## 7. インストールができない場合

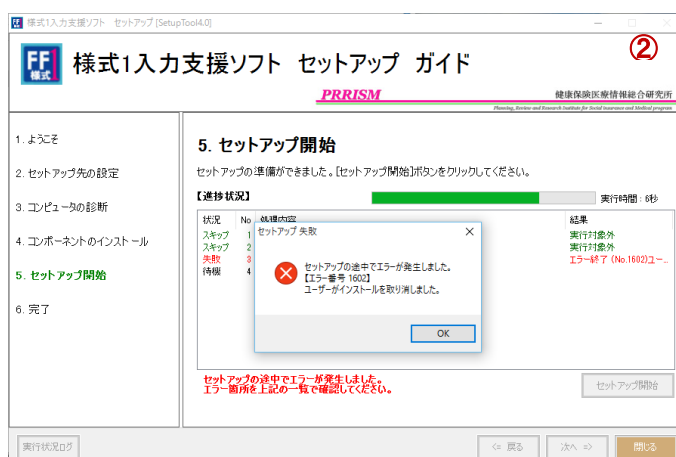
インストーラーを実行した際にエラー等でインストールができない場合は、PCを再起動して、再度セットアップ.EXEの実行をお試しください。

それでも、セットアップエラーが発生するようでしたら、以下のエラー情報を添付したうえで、事務局（[dpc@prism.com](mailto:dpc@prism.com)）に送付ください。

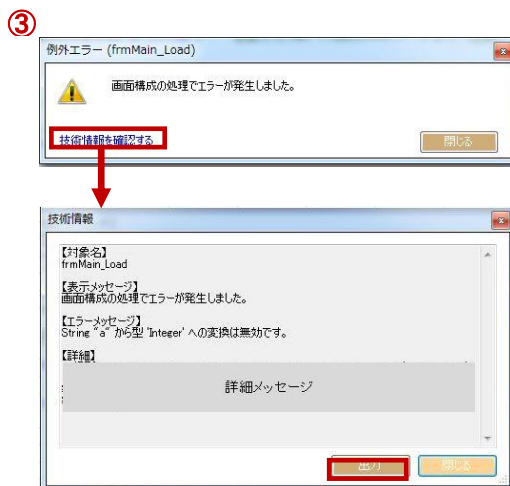
### ■添付するエラー情報



- ① セットアップツールの「実行状況ログファイル」を出力し送付ください。  
セットアップツール画面の左下にある[実行状況ログ]ボタンより出力できます。  
(ファイル名: 実行状況ログ\_YYYYMMDD\_hhmmss.xml)



- ② セットアップツール実行時、エラーが発生画面すべてのハードコピーをお送りください。  
(可能であれば、エラーメッセージが見える画像)



③ 上記のようなエラーが表示される場合は、「技術情報を確認する」リンクラベルをクリック→[出力]ボタンからエラーログを出力したうえで、画面キャプチャーと合わせてお送りください。

④ SQLServer2014ExpressSP3 のインストールログファイルをお送りください。  
下記の出力先に出力されます。

**【SQLServer2014ExpressSP3 インストールログの出力先】**

**「32bit の場合」:**

「C:\Program Files\Microsoft SQL Server\120\Setup Bootstrap\Log\yyyyMMdd\_hhmmss\SSummary\_PC 名\_YYYYMMDD\_hhmmss.txt」

**「64bit の場合」:**

「C:\Program Files (x86)\Microsoft SQL Server\120\Setup Bootstrap\Log\yyyyMMdd\_hhmmss\S Summary\_PC 名\_YYYYMMDD\_hhmmss.txt」